

令和5（2023）年度 第1回「じんけんセミナー」

テーマ 「ハンセン病問題を考える」

講師 西浦 直子 さん（国立ハンセン病資料館 学芸員）

アンケート感想集約

01. 心が痛くなりました。後世につなげていきたいです。20代
02. ハンセン病の理解が深まった。人権侵害の実態がよくわかった。40代
03. 今日はありがとうございました。中学か高校の社会の授業でハンセン病のことをきいた記憶がありましたが、詳しくは知りませんでした。今日は正しく知ることができましたし、今後同じような状況になった時、自分がどう行動すべきなのかということを考えるよききっかけになりました。私の職場や家族に伝えたいと思っています。40代
04. ハンセン病について知ることができました。また、今、私たちができることについても話をしてくださったのがよかったです。見過ごさない、知る（正しい知識）、考えることを続けていきたいと思いました。40代
05. 今日は大変よい機会になりました。ハンセン病について、いつかきちんとお話を聞いてみたいとおもっておりました。東京から講師の方が来てくださって、お話をしてくださった事にも感動いたしました。間違った政策の中で、悲しくつらい思いをされてきた患者さんたちのことを思うと涙が出そうでした。ありがとうございました。40代
06. とてもわかりやすくてよかった。50代
07. 今回初めてハンセン病について、講話を聴かせていただきました。改めて、正しく理解することから始めていくことを教えていただきました。50代
08. 「その人に尊厳があることを忘れない」この言葉を大切に、日々くらしたいと思います。ありがとうございました。
先生には今後ともお元気で活躍されますことをお祈りします。60代
09. どんなことも正しく知ることの大切さ、想像力の必要性を感じました。60代
10. 知らないことは、大きな間違いを生むことが痛烈に頭に響いた。無知にならないために、情報をしっかりと自分の身に取りこめるように努力していきたい。良い機会をもらってありがとうございました。60代
11. 生々しい差別の実態を判りやすくせつめいしてもらえた。病気と人を区別せず「根絶する」とした無ライ県運動の恐ろしさを教えられた。生涯隔離「人生被害」とは重い言葉だった。自分自身が差別していないか、考えているか、問いかけてられていると感じた。70代